

【政治】

2閣僚が靖国参拝 岩城法相と高市総務相

2015年10月19日 朝刊

岩城光英法相、高市早苗総務相は十八日、東京・九段北の靖国神社を秋季例大祭に合わせ、それぞれ参拝した。第三次安倍改造内閣発足後、閣僚の参拝は初めて。

岩城氏は参拝について「国のために戦い、尊い命をささげられたご英霊に感謝の誠を表すためだ」と記者団に説明した。高市氏は「み霊に心から感謝の気持ちをささげた」と述べた。



高市早苗総務相



岩城光英法相

両氏は玉串料を私費で納めた。記帳は「国务大臣 岩城光英」、「総務大臣 高市早苗」とした。高市氏は昨年九月の総務相就任以降、昨年の秋、今年春の各例大祭、八月十五日の終戦記念日のいずれも参拝している。

安倍晋三首相は十月十七日、「内閣総理大臣 安倍晋三」名で「真榊(まさかき)」と呼ばれる供物を奉納した。二十日までの例大祭期間中の参拝は見送る。首相は二〇一三年十二月、就任後初めて参拝した。例大祭には参拝せず、真榊を奉納している。

◆中国と緊張招く 新華社報道

【北京＝秦淳哉】中国国営新華社通信は十八日、安倍内閣の二閣僚が靖国神社に参拝した事実を伝えるとともに、「日本の一部の政治家が靖国参拝を続けることで、日本と中国、韓国などアジア各国の關係に緊張を招いている」と批判的に報道した。

新華社は参拝した岩城光英法相について「十月に入閣し、保守系政治団体の神道政治連盟国会議員懇談会に所属している」と説明。高市早苗総務相についても「保守主義者として有名」と伝えた。

◆改善努力に背く 韓国外務省

【ソウル＝中村清】安倍晋三首相が靖国神社に供物を奉納し、閣僚二人が参拝したことに対し、韓国外務省報道官は十八日、「過去の植民地支配や侵略戦争を美化しようとする行為で、韓日關係を改善しようとのわれわれの努力に背くものだ」と批判する論評を発表した。

論評は「日本が正しい歴史認識を基盤に謙虚な省察と反省を行動で示してこそ、両国民の期待する韓日關係の安定的な発展が可能となることを再度、はっきりと指摘する」とした。